

## チャレンジ！！オープンガバナンス 2019 市民／学生応募用紙

地域課題タイトル (注1)	No.	タイトル	自治体名
	8_3/3_1	若者の意見を活用し、市民が課題解決を行う地域づくりプラットフォームの形成	東京都 多摩市
アイデア名(注2) (公開)	夢や想いのある、まだ何者でもない若者・子育て世代が多摩市を舞台に人生100年時代を生き抜く人材に成長できるプラットフォームの建設		

(注1) 地域課題タイトルは、COG2019 サイトの中に記載してあるエントリー自治体(連合)が掲げる地域課題を記入してください。

(注2) アイデア名は各チームが応募されるアイデアにつけるものです。アイデアにふさわしい名前を付けてください。

### 1. 応募者情報

チーム名(公開)	多摩市若者会議		
チーム属性(公開)	<input type="radio"/> 1. 市民によるチーム <input type="radio"/> 2. 学生によるチーム <input checked="" type="radio"/> 3. 市民、学生の混成によるチーム		
メンバー数(公開)	35 名		
代表者情報	氏名(公開)	高木 康裕	
メンバー情報		高野 義裕 高橋 良輔 松島 耕太 高橋 菜緒 多摩市若者会議実行委員 35 名	

**(注意書き) ※ 必ず応募前にご一読ください。**

<応募の際のファイル名と送付先>

1. 応募の際は、ファイル名を COG2019\_応募用紙\_具体的チーム名\_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院の COG2019 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。 admin\_padit\_cog2019@pp.u-tokyo.ac.jp

<応募内容の公開>

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者と公開に同意したメンバー氏名、「アイデアの説明」は公開されます。

3. 公開条件について：

「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY (表示) 4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC (表示-非営利) 4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。

(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)

4. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公表いたしません)

5. この応募内容のうち、「3. 自治体との連携」は、非公開です。なお、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあります。

<知的所有権等の取扱い>

6. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様をお願いします。

7. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

<チームメンバー名簿>

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。（2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。）

## 2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容、(2) アイデアの理由、(3) 実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。

必要に応じて図表を入れていただいて結構です。

### (1) アイデアの内容（公開）

アイデアは、課題解決のために、何をやる社会的なサービス（活動）なのか、をわかりやすく示してください。これが将来実現した場合、魅力的で新規性があり、実践したり、活用したくなる、そしてその結果として、課題が解決される、そんなワクワク感のあるアイデアを期待します。2 ページ以内でご記入ください。

<応募チームとして解決したい課題>

- ・多摩市では若者・子育て世代の地域参画意識が低く、20 代後半～30 代前半は転出超過となっています。
- ・この地域課題に対する既存の取り組みである「多摩市若者会議」では、若者・子育て世代の地域参画という側面で効果が見られたものの、[課題 1].市事業終了後の継続性と[課題 2].市民のニーズに対する利益享受や市民側の認知が不十分と言う課題があります。

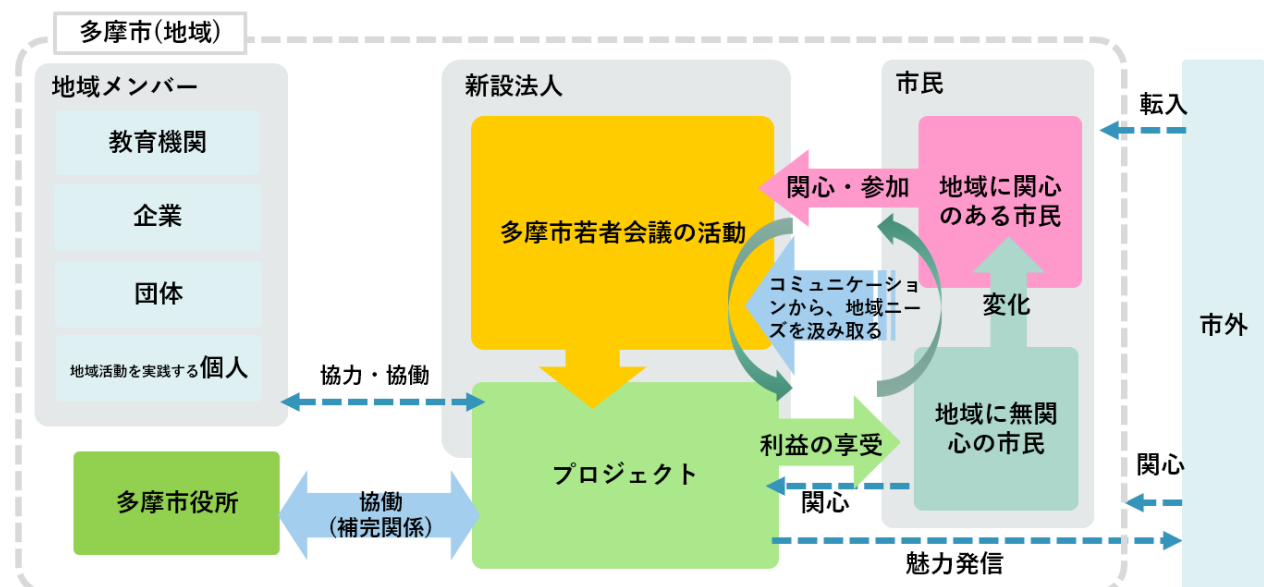
<解決アイデアの内容>

多摩市を若者・子育て世代の視点を活かした地域づくりプロジェクトを生み出し、実践し続ける先進都市とするプラットフォームを建設します。

【このプラットフォームの 3 つの機能】

- 地域とのコミュニケーションの場をつくります。(未知カフェを中心とした様々なコミュニケーションアイデア)
  - ⇒ 地域づくりへの関心・関係者を増やします。
  - ⇒ 地域のニーズを的確に捉えます。
- 大小様々な地域づくりアイデアの引き出し・プロジェクト創出の場をつくります。(若者会議)
- 地域づくりプロジェクトの運営をサポートします(プロジェクト支援事業)
  - ⇒ まだ何物でもない若者・子育て世代を夢や想いの実現に向け活動する場をつくります。

【地域づくりプラットフォームの概念図】



この取り組みを持続可能な仕組みとする為、合同会社を新設します。

この法人は 2019 年度までの多摩市の 3 箇年事業である多摩市若者会議の取り組みを実践してきた若者・子育て世代が自主的に取り組みを継続・発展させるものです。

## 【プラットフォームの4つの仕組みと課題解決方法】

### ① プロジェクト創出・運営のサポート[課題 1]

多摩市若者会議に参加してきた若者・子育て世代が、地域を舞台にした企画や催しを実践してきた取り組みを継続・発展させます。(これまでの実績:地域の教育、多摩市をホームタウンとするスポーツチームの応援等)

営利を追求せずに実施できるのは、2019年に開設したまちづくり・交流拠点「未知カフェ」をその舞台として活用できる為です。プラットフォームとしては参加者が継続して活動できる場を提供します。

場の運営には固定費が掛かるものの、売上の一部から負担することで、プロジェクトを主催している人が「輝いて活動できる」「魅力的になれる」プラットフォームを利用することができます。このプラットフォームによって主催している人は人生100年時代を生き抜くスキルや能力を身につけることができます。

この結果、次世代に活躍する若者を多摩市から輩出します。

#### ●プロジェクト運営のサポート

この場には学生や若手社会人が多く参加していますが、社会人メンバーのコーチングにより、学生や若手社会人のプロジェクト運営をサポートしています。

### ② 未知カフェを中心とした地域とのコミュニケーション [課題 2]

従来の多摩市若者会議の取り組みは、若者会議の参加者の感じている地域課題やフィールドワークでの気づきをもとに地域課題解決アイデアを企画しており、地域の声を反映する仕組みは不十分でした。

従来の受け身のコミュニケーションに加え、積極的に自ら地域に出てコミュニケーションを取ったり、広く意見やアイデアを求める仕組みをつくり、地域のニーズを的確に捉えます。

#### ●自ら地域に出ていくコミュニケーション

- ・出張未知カフェ(地域イベントに未知カフェのコンセプトを持ち込む)(2019年9月～)
- ・モバイル屋台(公園・団地等で移動式屋台からコーヒーを提供し、会話の場を作る)(2019年11月～)
- ・未知カフェに地域の方を店長に招く営業(店長と繋がりのある方のコミュニティと繋がる)(2019年12月～)
- ・地域のキーパーソンへのヒアリング

⇒ 実践例(農業チーム):「多摩市の農家さんと市民の方が農産物を通して交流する様なイベントを開催したい。都市農業の課題解決にお手伝いができないか。」との思いから、地域のキーパーソンへのヒアリングを開始、課題解決施策を検討中(2019年10月から活動中)

#### ●デジタル活用によるコミュニケーション

- ・スキルシェアリング・困りごとマッチングアプリの実証実験(KDDI様のご協力、2019年11月から実行委員メンバー内で実験中、2020年1月地域開放予定)

#### ●広く地域課題やニーズ、アイデアを求める

- ・多摩市と協働し、地域版COGの企画・主催(P7参照)
- ・テーマを決めた会話の場を設ける(2019年6月から未知カフェで3回程開催)

#### ●未知カフェの設備を活用した若者・子育て世代の「夢」へのチャレンジ

- ・未知カフェを活用したチャレンジショップや飲食店開業前の試験営業等の「夢」にチャレンジする「場」の提供

### ③ まちづくり・交流拠点「未知カフェ」運営の仕組み (詳細は P8 参照)

このプラットフォームから創出されたプロジェクトの売上の一部から固定費を負担してもらいます。

### ④ プラットフォームの二次的利用 [課題 1]

- ・プラットフォームが機能した後は、二次的利用として企業や自治体の調査・研究のフィールドとしても機能をさせます。既に企業と連携した施策も実施しており、その取り組みを発展させます。(2018年に1社、2019年に2社スタート)

## (2) アイデアの理由 (公開)

このアイデアを提案する理由について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ2ページ以内で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類の数値データやアンケート・インタビューなどの資料や関連の計画、既存の施策などの定性データのことを総称します。データは出所を明らかにしてください。

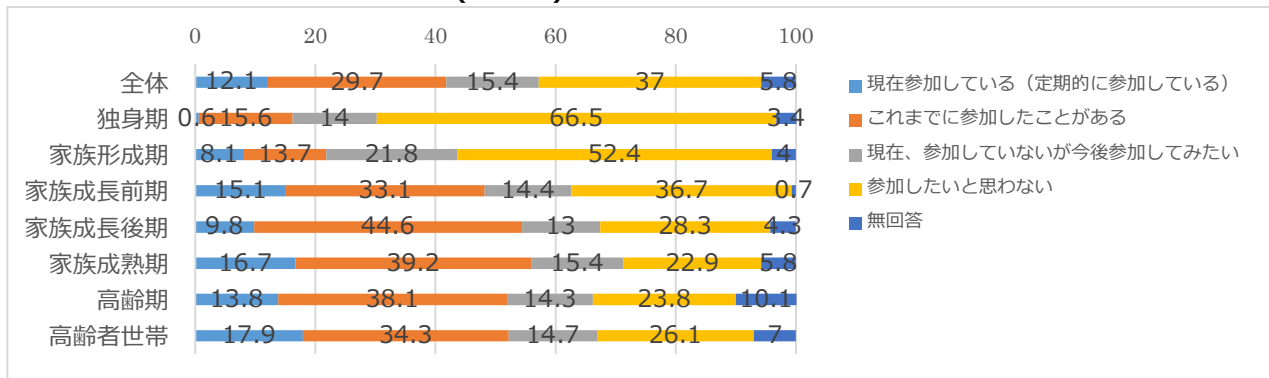
多摩市では若者・子育て世代の地域活動への参画意識が低く、従来の枠組みの地域活動ではこの世代にほとんどリーチできていません(下の世論調査のデータを参照)。多摩市全体では定住志向が高い(※1)ものの、20歳代後半~30歳代前半に限っては転出超過(※2)であり、この世代に向けた地域の魅力づくりや地域参画意識の向上は多摩市の喫緊の課題です。

※1 H30.2 多摩市政世論調査にて「ずっと住み続けたい」および「当分は住み続けたい」の回答が全体の81.7%

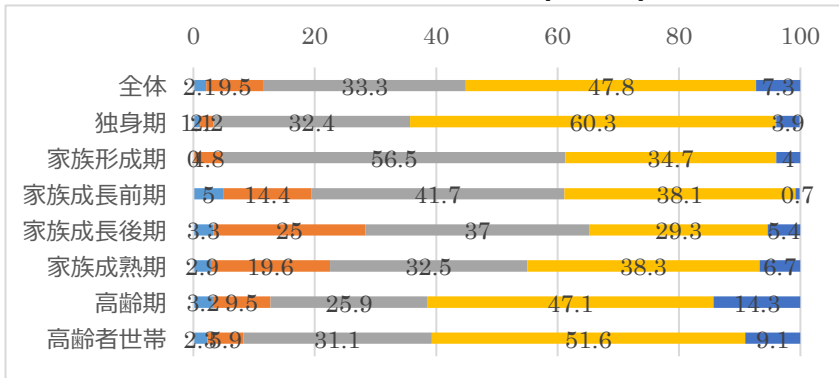
※2 COG2018の多摩市若者会議チーム応募アイデアのアイデア理由を参照

<ライフステージ別地域活動参加動向>(データの出典：第37回多摩市政世論調査(平成30年2月))

### ●自治会・管理組合・コミュニティセンター事業(単位:%)



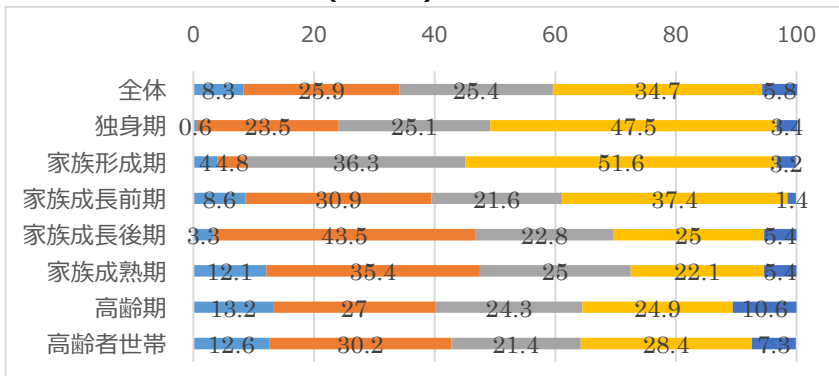
### ●子育て支援や青少年健全育成等のボランティア活動(単位:%)



### <ライフステージについて>

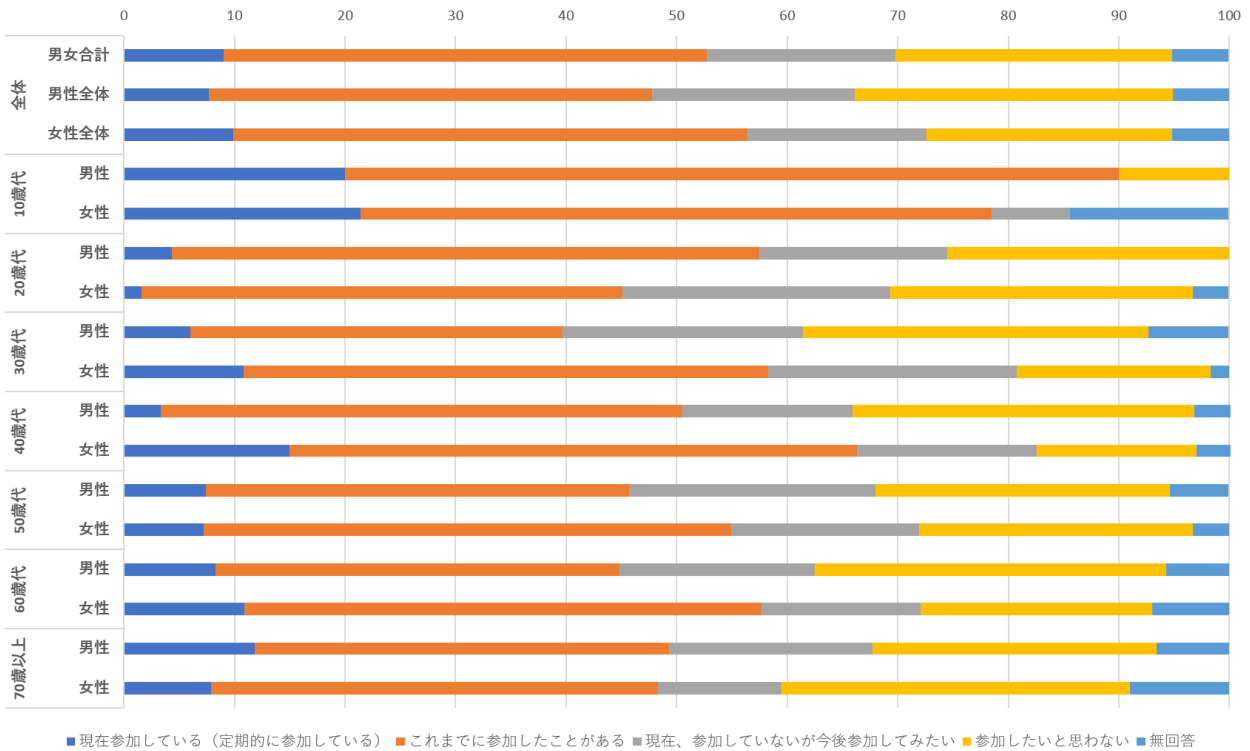
- 1.独身期 (10~30歳代の未婚者)
- 2.家族形成期 (10~30歳代の子供のいない夫婦、または第一子が未就学の親)
- 3.家族成長前期 (第一子が小学生~中学生)
- 4.家族成長後期 (第一子が高校生~大学生)
- 5.家族成熟期 (第一子または子供全員が独立(学校卒業、就職、結婚等))
- 6.高齢期 (65歳以上で子供と同居)
- 7.高齢者世帯 (65歳以上で子供と別居あるいは高齢者のみ)
- 8.その他 (40~64歳の未婚者及び子供のいない夫婦、その他)

### ●道路や公園の草取り等の清掃(単位:%)



<年齢・性別 別地域活動参加動向>(データの出典：第 37 回多摩市政世論調査(平成 30 年 2 月))

●盆踊りやお祭り(年代・性別別)(単位%)



比較若者・子育て世代の参加意識の高い「盆踊りやお祭り」についても、年代別にみると10代(多摩市出身者が多い)と20代(近隣大学に通う為に転入した世代が多い)の参加意識に大きな違いがあり、20代の地域参画の場はほとんどない状況と言えます。

この課題への対策として、平成 29 年度に多摩市がスタートした多摩市若者会議では、延べ 665 人が参加(2019 年 11 月末現在)し、多くの若者・子育て世代からまちづくりに対するアイデアが生み出され、プロジェクト化されたいくつかのアイデアは実現しており、若者・子育て世代の地域参画と言う意味では効果があったと考えられます(出典：多摩市若者会議実施報告書(平成 29 年、平成 30 年)、多摩市公式サイト)。

しかし、従来の多摩市若者会議によるまちづくりの活動は多摩市が主催するワークショップやフィールドワーク、多摩市からの委託先である林田暢明氏の合同会社 TAO によるファシリテーション、未知カフェの不動産賃貸契約・営業免許取得等のサポートに依存しており、令和元年度末で多摩市事業が終了すると、若者による地域参画の場が失われることとなります[課題 1]。

本アイデアでは、この課題の対応として、多摩市若者会議の参加者である若者・子育て世代が自主的に活動を継続・発展させ、プラットフォームとして持続可能な仕組みをつくります。

●地域とのコミュニケーション強化の必要性

多摩市事業の多摩市若者会議の枠組みでは年齢制限の無いワークショップでの他世代との交流はあるものの、多摩市若者会議に興味をもってワークショップに来てくださった方との接点のみで、地域の方とのコミュニケーションが十分であるとは言えませんでした(若者・子育て世代にも同様の事が言えます)。

若者・子育て世代の地域参画意識が他世代に比べ相対的に低いのは前項のデータの通りですが、他の世代でも約 20%~50%の人は明確な地域参画意識を持っていないことがわかります。[課題 2]

本アイデアでは、この課題への対応として、自分達から地域に出ていくものや広く地域の声を集める仕組みも含め、多数のコミュニケーション手段のアイデアを組み合わせ実践していくことで、地域のニーズを的確に捉えます。

### (3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを実現する主体、アイデアの実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの実現にいたる時間軸を含むプロセス、実現の制度的制約がある場合にはその解決策等、アイデア実現までの大まかな流れについて、2 ページ以内でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

#### このプラットフォームの 4 つの仕組みについて

##### ① 未知カフェを中心とした地域とのコミュニケーション

これまでに実践してきた地域とのコミュニケーション施策とそのステータスは以下の通りです。

コミュニケーションアイデア	ステータス	実現/開始時期	人数	費用	補足
未知カフェ-TAMA Revival -					
開設まで	完成	2019年3月	35名	200万円	(前年応募アイデアを含む)クラウドファンディングで資金調達、可能な限りDIYで製作
家賃・光熱費	-	-	-	7.5万円/月	2020年9月までは不足分を合同会社TAOから支援頂く予定。10月以降は新設法人が継承し自分達で資金調達
若者会議実行委員によるカフェ営業	実施中	2019年4月	15名	⇒	売上の35%を人件費として支出、営業益で費用調達
地域の方を1日店長に招く営業	実施中	2019年12月	-	⇒	売上の35%を人件費として支出、営業益で費用調達
モバイル屋台					
屋台の製作	完成	2019年10月	10名	約2万3千円	有志メンバーが費用負担し完全DIYで製作
市内でのコーヒー提供	実施中	2019年11月	-	-	今後、屋台としての営業許可の取得を目指す
出張未知カフェ	実施中	2019年9月	-	⇒	未知カフェの収益から費用を調達
テーマを決めた会話の場	実施中	2019年6月	-	⇒	(前年応募アイデアを含む)未知カフェ開催の場合、売上の35%を人件費として支出、営業益で費用調達
地域のキーパーソンへのヒアリング	実施中	2019年10月	5名	-	農業チームから実践スタート
企業連携	実施中	2018年	10名	-	2019年に新たに2社と連携開始
ウェブサイト	運用中	2019年8月	-	0円	実行委員メンバー運営サイトの余剰リソースを活用。
SNS	運用中	2017年	5名	0円	活動の様子をリアルに伝えていく工夫をする
スキルシェアリング・困りごとマッチング	実験中	2019年11月	4名	0円	実証実験を利用させてもらっているもの。困りごとマッチングは前年応募アイデアがベース
地域版COG	企画中	2020年3月予定	10名	⇒	未知カフェの収益から費用を調達

#### ●地域版 COG の開催

○必要費用：印刷費用等の雑費のみ。雑費は未知カフェの営業益から確保。

○必要人員：運営側のスタッフとして3名程度、当面は若者会議メンバーがボランティアで対応。

自分達に限らず、地域で活動するメンバーのコミュニケーションを図り、地域に有機的な市民による地域課題解決のコミュニティを構築することを目指し、時間を掛けて、丁寧に実施します。スケジュールは以下の通り。

##### (1).地域課題の募集（～2020年6月末）

多摩市役所に限らず、地域で公共性の高い事業や取り組みを行っている団体からも課題を集めます。民間からの設定の場合は、あらかじめ多摩市役所との協働の可能性を事前に審査し、課題の内容を調整します。

##### (2).地域課題の勉強会を開催する（～2020年11月末）

課題設定者に未知カフェ等で勉強会を開催してもらいます。

##### (3).地域課題解決アイデアの募集（～2021年1月末）

##### (4).一次審査、(5).公開審査(～2021年4月末)

オープンガバナンスの有識者、地域のキーパーソン、課題設定者、市職員等を審査員と想定。

##### (6).受賞者の地域向け説明イベント、(7).受賞者のサポート

未知カフェ等で説明会とアイデアブラッシュアップの為にワークショップを開催し、オープンガバナンス実践の為に地域とのコミュニケーション強化もサポートします。プロジェクト運営でも必要に応じてサポートします。

## ② プロジェクト創出・運営のサポート

実施済みプロジェクト数：延べ 30 回

最近では月 3～4 件のプロジェクトが並走しています。

学生や会社員であるメンバーが「未知カフェ」があることでプロジェクトを実現し続けることが可能となりました。

これまで実行委員メンバー内でルールやプロジェクト実践の仕組みを作ってきましたが、この仕組み活かし、地域の方が誰でも簡単に 1 日店長になれる仕組みを整備しています。

これまで大学生の実現したいプロジェクトも社会人メンバーがサポートすることで実践してきました(※)。こうしたサポートをプラットフォームが提供することにより、やりたいことがあるが、やり方がわからない地域の方でもプロジェクト実践が可能となります。

## ③ 新設法人の設置と収益事業[課題 1]

### ●未知カフェ-TAMA Revival-の収益による運営費の確保

4 月より週 2 回(金・土曜夜)の定期営業の中で様々なアイデアを試行錯誤してきました。1 日店長については、売上の 35%の人件費を支払う仕組みで確立、12 月からは地域の方も 1 日店長にお迎えすることで、不定期の営業日数を増やしています。(12 月実績：3 営業日計 4 名)

これまでの試行の結果、プロジェクト実践利用や地域の方による 1 日店長の営業や既に月 1 回以上利用されている宴会利用と合わせて固定費の確保とその他運営費用の調達が可能と見込めることがわかりました。

【固定費用の調達に必要な 10 日間の夜営業を行った場合の収支計算】

(収入)

地域イベント・地域 1 日店長	利益平均 6,200 円 × 9 回	55,800 円
宴会利用	利益平均 20,000 円(実績月 1 回以上)	20,000 円
	計	75,800 円

(支出)

固定費用(家賃・共益費・光熱通信費) 約 75,000 円

## ④ 若者・子育て世代をメンバーに取り込む仕組み[課題 1]

### ●大学生や若者・子育て世代の夢にチャレンジできる「場」の提供

未知カフェのキッチンや店内スペースを活用し、試験営業やチャレンジショップ、ギャラリーとして夢にチャレンジできる場を提供します。未知カフェの空き時間帯を利用する為、新規の固定費用は不要。飲食店にチャレンジする場合は仕入れ費用をサポートする仕組みを整備し、チャレンジ利用者募集を開始しています。

### ●高校生以下の次世代が地域や社会に目を向けるきっかけづくり(出張若者会議)

市内中学校で実績のある出張若者会議を、2020 年度に市内高校での実施に向け、高校側とプログラム等調整中です。

### ●次世代との接点を作る施策

プログラミング教室を 2020 年 1 月スタート予定で参加者募集開始済み、模擬裁判企画もリハーサルを実施済。プログラミング教室は若者会議実行委員のエンジニア中心に担当予定。模擬裁判は市内法律事務所や近隣大学卒業生の弁護士の協力を得て進めています。



